

「後継衛星の整備・運用のあり方」 とりまとめに向けて

令和5年3月10日

静止気象衛星に関する懇談会

気象庁

静止気象衛星に関する懇談会

年度	令和 元年度 (2019年度)	令和 2年度 (2020年度)	令和 3年度 (2021年度)	令和 4年度 (2022年度)	令和 5年度 (2023年度)	令和 6年度 (2024年度)	令和 7年度 (2025年度)	令和 8年度 (2026年度)	令和 9年度 (2027年度)	令和 10年度 (2028年度)	令和 11年度 (2029年度)	令和 12年度 以降
現用機	ひまわり8号の運用・利用				ひまわり9号の運用・利用							
後継機	後継機の検討				後継機の整備							後継機の 運用,利用
	↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑											
	静止気象衛星に関する懇談会											

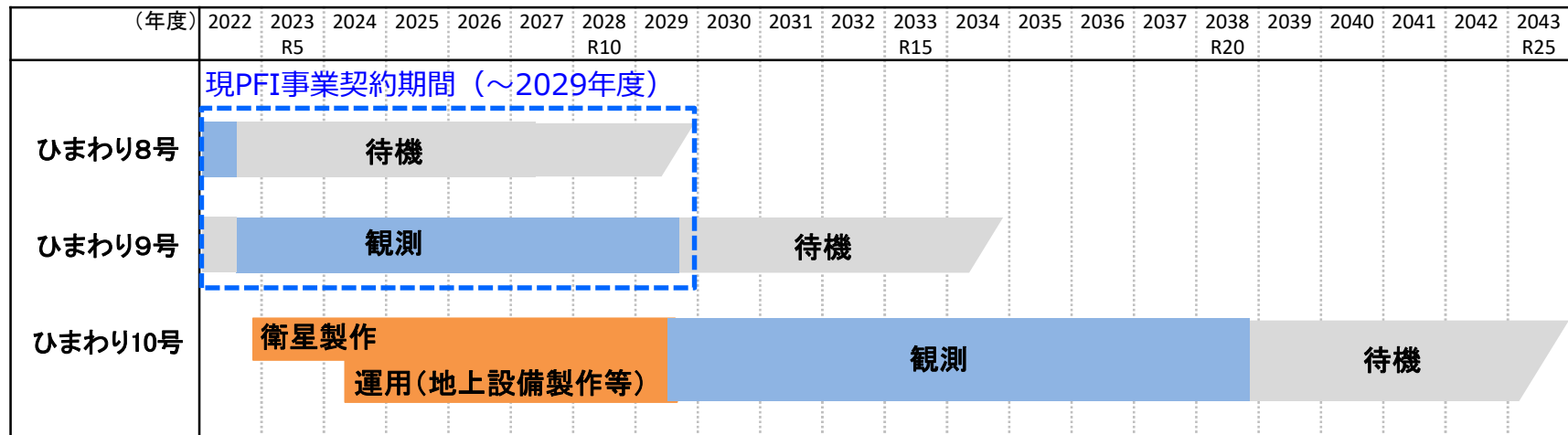
「静止気象衛星に関する懇談会」の開催状況

- 第1回 (令和元年 9月3日): 静止気象衛星ひまわりの役割・意義
- 第2回 (令和2年 7月21日): 国内外の技術動向、最新の科学技術の導入
- 第3回 (令和3年 2月24日): 民間のニーズ、事業実施方法
- 第4回 (令和3年 8月26日): さまざまな分野における利活用、国際協力
- 第5回 (令和4年 3月8日): ひまわりのデータ利活用促進の取組
- 第6回 (令和4年 6月21日): 中間とりまとめ
- 第7回 (令和5年 3月10日): データ利用等に関する今後の議論の方向性 【今回】

今後の予定

- 第8回 (令和5年 夏頃): 後継衛星の整備・運用のあり方(とりまとめ)

次期PFI事業形態に関する小会合の開催



- 次期衛星の事業形態は、現行衛星と同様に、衛星製作及び打上げを直轄事業として、運用を中心にPFI事業を効果的に活用することが適切。
- 軌道上に常時2機を置く体制は、しっかり確保する必要がある。10号を運用開始する時点では、現行の9号を延命させて待機運用にあてる。また、現行衛星から10号の観測運用に、円滑に移行する必要もある。これらを踏まえて、8・9号の運用も考慮した最も安定的かつ経済的な運用形態とする必要がある。

本懇談会の下にPFIに関する小会合を開催し、次期PFIの事業形態についてご議論いただきたい。

後継衛星の整備・運用のあり方 骨子案

1. はじめに 赤字: 中間とりまとめからの追加部分
2. 静止気象衛星の意義・位置付け
 - ひまわりが国内外の防災・減災で果たす役割
 - 様々な分野におけるひまわりの利活用
 - 静止気象衛星を取り巻く宇宙政策の動向
3. 次期静止気象衛星の整備・運用に関する取組方針
 - 最新技術の導入
 - 新たな観測センサの導入
 - 既存センサの精度向上等
 - 運用事業を中心とする民間活力の活用
 - **運用事業のあり方**
 - 利活用促進の取組
 - みんなのひまわり
 - データ提供環境のあり方
 - 産学官連携による利活用促進の実現
4. **今後の展望**